

令和3年度 第3回大阪支部評議会の議事概要

開 催 日	令和4年1月17日（月）10：00～12：00
開 催 場 所	アットビジネスセンター大阪本町 16階 1607号室
出 席 者	有澤評議員、岩崎評議員、北山評議員（議長）、小松評議員、渋谷評議員、辻評議員、永尾評議員、山下評議員（五十音順）
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 インセンティブ制度に係る令和2年度実績評価方法及び見直しに関する検討結果について（報告） 2 令和4年度保険料率について 3 令和3年度大阪支部事業実施状況及び令和4年度大阪支部事業計画（案）・予算計画（案）について 4 その他
議 事 概 要 （主な意見等）	<p>1 インセンティブ制度に係る令和2年度実績評価方法及び見直しに関する検討結果について（報告）</p> <p>事務局より資料に基づき説明。</p> <p>《主な意見》 特になし。</p> <p>2 令和4年度保険料率について</p> <p>事務局より資料に基づき説明。</p> <p>《主な意見》</p> <p>【学識経験者代表】</p> <p>大阪支部の保険料率について、前年から減少しているが、多少の変動がありつつも金額的に大きな差異が出ないことを考えると、平均保険料率も次年度以降10%を維持する方向で考えてよいと思われる。</p> <p>【学識経験者代表】</p> <p>平均保険料率に関しては、説明を聞くと10%維持が妥当であると考えます。また、準備金の運用に関する運営委員会の意見に関しても、おおむね賛同するところである。</p> <p>一方で、収支見通しのシミュレーションに関して、いったん2、3年の短いスパンで、当時のシミュレーションと実績値を比較することにより、実態との乖離を検証する必要があると思う。そういった検証が、シミュレーションの精度向上につながると考える。</p>

【議長】

5年、10年の中長期先を見通したうえで、準備金残高が増加しているものの平均保険料率は下げられないという結果が出ている以上、その結果の根拠となったシミュレーションに関して精度が求められるのはもつともである。先ほどの意見のように、検証をきちんと行う必要があると感じた。

【被保険者代表】

新型コロナウイルス感染症の影響が、今回の大阪支部保険料率に現れているとのことだが、今後も影響は大きいと思われる。こういったイレギュラーな状況の中でこそ、短期的にでも常に試算は行っていくべきと考える。また、年齢調整で保険料率がプラスになるということは、大阪支部の年齢構成は若年者が多く、高齢者が少ないということか。保険料率への影響も大きいと思うので、高齢者の割合や年齢構成比が今後どのように変化していくか気になっている。

【事務局】

年齢構成等については、資料を確認し後日お伝えさせていただく。

支部保険料率の算出について、所得は都市部が高い傾向にあること、年齢に関しては少子高齢化を背景として、保険料率が決定されている。大規模支部は、そういった部分で負担が大きくなる部分もあるが、その算出方法を変えていかないと、保険料率の負担も変わっていかない。そういった部分も含めて、提出する意見書のなかに反映していきたい。

【事業主代表】

保険料率に関して、相当な分析、シミュレーション、計算式を経て決定されているのだなと理解しているところである。10%維持については理解するが、地域差による都市部の負担率が大きく、地方が小さいというのは大きな問題を含んでいると考えるが、致し方ないと納得している部分はある。

【議長】

その地方で実際に使った医療費だけで算出すれば、高齢化、低所得化の進む地方の負担が重くなるため、保険料率が調整されており、大阪支部としてもその保険料を負担している。そういった仕組みは問題もあるが、納得している部分もあると受け取っている。

3 令和3年度大阪支部事業実施状況及び

令和4年度大阪支部事業計画（案）・予算計画（案）について

事務局より資料に基づき説明。

《主な意見》

【被保険者代表】

保険証回収率の低下についてだが、現在は事業所にて電子申請を利用している割合が増えており、郵送離れが起きていることが一因と思われる。今後も事業所に向けて、回収の案内を呼

びかけしていこうと思う。

また、各種申請書様式を HP 上で入力できることが便利で助かっている。今後もこのようなサービスを継続してほしい。

【被保険者代表】

新型コロナウイルス感染症の影響下のなか、様々な事業にご尽力いただいていると感じる。健康宣言事業に関して、令和 4 年度の KPI が 4,000 社に設定されているが、今後の最終目標として設定しているものはあるか。また、ジェネリック医薬品に関して、国の目標は令和 5 年度までに使用割合 80%となっているが、令和 5 年度の目標は 80%ということではよろしいか。

【事務局】

健康宣言に関して、長期的な目標は現状定められていないが、データヘルス計画に基づいて、令和 5 年度までに 5,000 事業所を達成するという目標を設定している。その先についても目標を設定する必要がある。ジェネリック医薬品使用割合に関して、最終的には、令和 5 年度において 80%の達成を目指しているところではあるが、KPI の設定としては、令和 4 年度においては、眼前の目標として数値を設定している。

【学識経験者代表】

保険証回収も債権回収も割合が低下しているが、保険者の事業として重要であると考えている。回収率向上に向けての取り組みに期待している。

【事務局】

債権回収、特に無資格受診については未然に防ぐことが重要であり、引き続き保険証回収を含め、力を入れて取り組んでいく。また、マイナンバーカードによるオンライン資格確認の導入によって、無資格受診に関しては減少傾向に向かうと思われる。大阪支部では、業務第 3 グループという保険証・債権回収に特化したセクションを設置しており、回収率を高めていくという決意を申し上げる。

【被保険者代表】

令和 3 年度 KPI の達成率を見ていると、新型コロナウイルス感染症という、今までとは違った環境で事業を進める中で、思うように目標が達成できてないものも見受けられる。その中で、令和 4 年度 KPI を令和 3 年度 KPI 以上に設定することで、負担が増えて目標が達成できないことを懸念している。目標をしっかりとクリアしたうえで、次のステップアップをする方が現実性が高いのではないか、無理をしているのではないかと感じる。状況に合わせた目標設定も必要ではないか。

【事務局】

確かに、無理をしている部分はあるかもしれないが、今回目標の達成が難しいのは主に保健事業であり、今後の対応を対面からオンラインに変更するなど、ピンチをチャンスととらえ、時代背景に合わせた対応をすることで改善が見込めると考えている。高いモチベーションを保

ちつつ事業運営に取り組みんでいく。あたたかいご支援をお願いしたい。

4 その他について

事務局より資料に基づき説明。

《主な意見》

特になし。

特記事項
・傍聴者：なし ・次回開催：令和4年3月予定